

令和6年度 第1回 介護・医療連携推進会議 記録

● 事業所情報

法人名	株式会社みらいさい福祉会
事業所	愛光苑松本サポートセンター

● 開催日時・場所

日時	令和6年6月23日（木） 13:30～14:30
場所	愛光苑地域交流センター

● 参加者（順不同）

NO	所属（役職）	氏名
1	利用者	K 様
2	利用者の家族	S 様
3	利用者の家族	F 様
4	本郷地区生活支援員	O 様
5	松本市北部地域包括支援センター	O 様
6	民生委員	T 様（欠席）
7	愛光苑ケアマネセンター	S 様
8	ニチイケアセンター松本桐	M 様
9	松本市高齢福祉課	M 様
10	愛光苑松本サポートセンター（管理者）	松崎 奈江

● 議事

NO	議事内容
1	あいさつ、会議の目的
2	愛光苑松本サポートセンターの業務について
3	サービス紹介
4	質疑応答

記録

議事1	あいさつ、会議の目的
	<p>この会議は、当事業所が提供する定期巡回随時対応型訪問介護看護というサービスを知っていただき、地域住民のみなさまに活用していただくために開催します。定期巡回随時対応型訪問介護看護は介護保険法では「地域密着型サービス」という部類です。このサービスの目的は「中重度の要介護状態になっても住み慣れた地域で暮らし続ける」「在宅生活の限界点を高める」ということです。</p> <p>事業所として提供しているサービスを公開し、会議の構成員のみなさまにご意見をいただき、今後の事業所運営やサービス提供に活かしていくことを目的としています。</p>

議事 2	愛光苑松本サポートセンターの業務について
	<p>愛光苑松本サポートセンターは、地域密着型サービスである「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」を提供する事業所です。</p> <p>サービス提供先として、在宅（事業所近辺）5名、サービス付き高齢者向け住宅みらいふ岡田松岡8名、住宅型有料老人ホーム愛光苑まつもと47名、となっています。</p> <p>在宅とみらいふ岡田松岡、愛光苑まつもと、それぞれ専属の職員を配置しています。</p>
議事 3	サービス紹介
	(別紙資料参照)
議事 4	質疑応答
意見 1	数日前に別の施設の運営委員会に参加した。そこでは経営状況について報告があった。施設に親を預けている家族としては、安定経営してほしいと思っている。高齢者のケアをしてたまったストレスの結果、職員同士の争いがおきるため、施設としてはそれを解消するような対策をしているとのこと。昨年は市内の施設虐待の報道もあった。家族としては心穏やかに働いてほしいと思っている。
回答 1	当施設でも入居者様の安全の確保から、5月に施設の共用部分に監視カメラを設置。カメラの映像は本部役員が見られるようになっている。
意見 2	4月下旬に入居した。月に一回お便りが届くが、本人の様子についてコメントがあるので、本人の様子がとてもよくわかってよいと思う。今まで在宅で通っていたデイサービスはこのようなお便りがないので、本人から聞くしかなかった。最近本人からここでの生活の感想を聞いてみた、「自由度は減るが食事の時間が決まっているのがよい。」とのことだった。
回答 2	ご本人様に喜んでもらえてよかったです。お便りの内容は毎月行っているモニタリングを元に居室担当が作成しています。
意見 3	地域の方をおよびして意見を聞いて開かれた事業所運営をするためのこのような会議を大切にしてほしい。定期巡回のような見守りが必要な方が地域に増えているが、定期巡回のサービスを提供している事業所が少ないので、高齢福祉課としては継続してサービス提供している愛光苑松本サポートセンターに期待している。在宅のお一人お一人の暮らし、24時間の生活に沿ったサービス提供をしてもらえればと思う。サービスを受けながらも自分でできる部分は自分でやってもらいたいと思う。
回答 3	自分でできる部分は自分で行う、今までは手伝っていたが回復してできるようになれば自分でやってもらう、というあたりの説明が難しく、前の人はやってくれたのになぜやってくれないのか、という話になる場合もある。ケアマネジャーに協力してもらって担当者会議の場を設けてもらい、時間をかけてご本人ご家族に理解を求めるようにしている。
意見 4	地域の通いの場やサロンに出かける役割をしている。サロンに出かけると、来ているお年寄りから、「今は元気だけどもし年を取ったらどこに行ったらいいのか？」等の相談がある。このような会議に参加できると、地域でお年寄りの相談にのる際とても参考になる。
回答 4	地域の社会資源として、地域で相談にのったりする立場の方に、是非定期巡回サービスを知ってもらいたいと思っている。

意見 5	自己評価表のコメントに関して、「回復と現状維持」の部分で、現状維持にとどまっているとあるが、やはり回復を目指してほしいと思う。	
回答 5	加齢に伴う変化の中で、何を回復とするかはご利用者様の状況によりさまざまであるが、職員のカンファレンス等で、回復を見つけていきたいと思う。	
意見 6	介護しているご家族の事情で、短期間であるがサービスを利用したいというケースがあり2か月程度の利用であったが、家族は今まで通り介護を継続することができた。 「定期巡回を困ったときだけ利用して回復することを目指す」という利用の仕方をすると思う。経営は安定しないかもしれないが。	
回答 6	タイミングよく当事業所の定期巡回を利用していただくことができたケースであった。タイムリーに活用していただくためにも、ケアマネジャーやご家族にこのサービスを知ってもらう必要を感じた。	
意見 7	住宅型有料老人ホームのような施設であるとサービス提供はしやすいが、在宅だと同居家族の課題があり利用のハードルが高い。	
回答 7	(高齢福祉課) 定期巡回で同居家族がいてもサービス提供できる場合もある。基本的に生活援助は同居家族ができないのかと検討する。同居家族が必要な支援をできない場合は相談票で市役所に相談をしてもらう。声かけをして本人に促し身体介助として入ることもできる。本人の介護度に応じながらも本人ができることは本人がやるようにしてほしい。	
意見 8	事前に配布された自己評価表の内容の言葉が難しい。カタカナ言葉も多い。(BCP とかアセスメントとか) この評価表の内容を職員は理解しているのか。またこの評価は誰が何を評価するものなのか。	
回答 8	自己評価表とは、事業所として自分の事業所の提供しているサービスに対して評価をし、その内容を構成員さん方に公開しているものである。 職員は、この評価表で使われている言葉については、業務で使用している言葉なので理解してる。	
意見 9	会議の内容として、自己評価表にのっている項目は具体的に施設でどんなことをやっているのか、説明があるともっとよくわかると思う。例えば経営理念のよみあげとか、接遇目標とか、BCP とか。	
回答 9	BCP は事業所としてではなく会社が計画を策定し、職員が誰でも見られるようになっている。施設で交代で避難訓練を年に一回行っている。 接遇については、目標を「涼やかにを極める、言動や所作を品よく美しく」として、毎週月曜日に接遇チェックを行っている。目標を念頭によい接遇と思われたエピソードを上げるようにしている。 自己評価表を会議の議事で活用することは今までできておらず課題であった。自己評価表の項目に基づき施設の様子を説明する等、内容を工夫していきたいと思う。	
	議事録作成	松崎奈江

以上